



あけぼの作業所の生活介護「リーフ」グループで行っている、サンチュの水耕栽培。

平成28年度、障害者総合支援法が施行されて以来、三年目を迎えました。「虐待防止法」「障害者差別禁止法」が整備されて世の中に浸透し、地域に根付いた地域福祉が充実されつつあります。そして、28年度中に「改正社会福祉法」が制定・施行され、4月から実施されました。この法律の趣旨は、福祉サービスを受ける利用者のために社会福祉法人が将来にむけて継続し安定した経営をし、潰れることがないように監督・指導するというためのものです。更には、法人の収益を本業のほか、他の福祉サービスに活用し、低減な費用又は無料で地域の福祉サービスに貢献させるためのものでも

あります。当法人は、早くからこの趣旨に沿う形で地域課題に取り組む、ゆりかごから墓場までの経営方針を貫いてきました。次に、28年度の事業方針の進捗状況を報告します。

1、【収支のバランスが悪化した為、収支改善に最大級に力を入れる】→アメンバー経営は幹部職員の研修を実施し、29年度は全グループリーダーから下部職員に至るまで全員参加経営を実践する準備が整いました。

2、【職員の労働生産性を上げる「福祉会計」】。就労生産性「就労会計」を上げる【↓28年度は未だ出来ず、29年度はアメンバー経営を全員参加で実践することで成功させます。

3、【介護技術アップの研修制度とキャリアアップに基づく手当等を導入する。マイスター制度または段位制度の構築を進める】→清掃クリーニングはマイスター制度を設け、職員の資格者には手当を支給することができました。介護技術アップの研修制度は29年度に実践します。

4、【まずは、一次産業（農業）に取り組む】→畑を借りて農作業を実践し、水耕栽培を手掛けるところも出てきて成果が上がりそうです。

5、【教育部門（エコール・ド・イタル）を一般社団法人にする】6、【商事部門を一般社団法人にする】→教育部門と商事部門を一本化して一般社団法人を設立しました。

平成28年度・事業報告

総括

社会福祉法人いたるセンター

理事長 谷山 哲浩

いたる通信 65号 夏号

ITARU CENTER

目次 contents

- 01 巻頭 谷山理事長
- 02 ・ISO9001 2015年版の活用  
・アート活動について  
・29年度虐待防止委員会の取り組み
- 03 ・三井ソーシャルオフィスの現場から  
・保育事業の現場から
- 04 ・ワルツに防災倉庫を新設  
・男性職員の入職でより利用しやすく  
・居宅介護支援について  
・開店6周年を迎えて
- 05 ・活動の興行きと拡がりに期待して  
・新規取引先が増えました  
・アンケートから見えてきたこと
- 06 ・いたる職員日より  
・不適切表現のお詫び

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

郵便振り込み 105千円(何口でも可)  
年会費 00110712892  
033927346 事務局 山本まで

いたる職員便り/7~9月に誕生日を迎える職員のみなさま、おめでとうございます。

7月01日 山田弘子さん  
(あけぼの作業所・グループリーダー)  
甥っ子&姪っ子と遊ぶこと。

7月02日 松橋達子さん  
(ピヨピヨおうちえん)  
飼猫のチョコとの遊びで一日の疲れが吹っ飛びます。

7月05日 芳賀康平さん  
(イタル成城・生活介護)  
テレビでプロ野球中継を観ながら、SNSでつづやくのがマイブームです。



7月08日 後藤清夏さん  
(目黒本町福祉工房・就労B型)  
年齢に見合った健康的な生活を送る事。

7月10日 佐野充さん  
(目黒本町福祉工房・生活介護)  
音楽を聴きながら散歩することです。洋楽のロックが好きです。

7月20日 源九亜津紗さん (法人本部)  
ディズニー関連の音楽を聴いて、ディズニー気分を味わうこと!

7月20日 徐カモンさん  
(目黒本町福祉工房・就労B型)  
歩くことが好きです。旅行と温泉めぐりでリフレッシュしています。

7月31日 浮須真也さん  
(阿佐谷福祉工房・グループリーダー)  
博多ラーメンの旨い店探してます。ちょっと固めが好きです。

8月03日 佐藤章さん  
(阿佐谷福祉工房・施設長)  
バレーボール系のネット競技を楽しんでいます。今年のソフバの区民大会は、残念ながら銅メダルでした。



8月06日 荒川善夫さん  
(あけぼの作業所・施設長)  
昔も今も「美味しいお酒と美味しい肴」を大好きな温泉旅館でいただくことです。

8月06日 山本聖示さん  
(法人本部・グループリーダー)  
娘のドラム演奏を聞くことです。



8月13日 奥田裕美さん  
(あけぼの作業所・専門職員)  
DVD、ドラマ、お笑い・健康番組等を晩酌しながらよく観ます。

8月13日 小名木智子さん  
(目黒本町福祉工房・生活介護)  
切り絵がマイブームです。細かければ細かいほどやる気がわきます。

8月17日 藤巻幸子さん  
(阿佐谷福祉工房・グループリーダー)  
楽器がひけるようになりたいと思い、ウクレレならおうかなーと考えています。

8月17日 澤田綺映さん  
(ピヨピヨおうちえん)  
バスケットが大好きです。練習、試合後のお酒が最高においしいです。

8月19日 文野正広さん  
(あけぼの作業所・統括リーダー)  
昨年末にエッセンシャルオイルを作る機械を購入しました。ゆずやローズマリーやゼラニウムの精油作りにはまっています。

8月27日 嶋田智裕さん  
(イタル成城・生活介護)  
海を見に、サイクリングに行ったりしています。



8月27日 猪田祥子さん  
(目黒本町福祉工房・生活介護)  
夏はかき氷のおいしいお店を探して巡ります。登山もします。

9月02日 村越千佳さん  
(ピヨピヨおうちえん)  
ピカチュウが好きです。グッズやぬいぐるみを沢山集めています。

9月06日 山口聡樹さん  
(イタル成城・パンブル)  
首都圏近郊のスーパー銭湯巡りがマイブームです。



9月12日 谷山哲浩さん (理事長)  
まだまだ現役のヨットマンです。GWは、東京湾から和歌山までセーリングしました。



9月16日 石川文彦さん  
(イタル成城・統括リーダー)  
ダーツ、車、バイクが好きです。



不適切な表現に対するお詫びを申し上げます。

平成29年1月1日発行の、いたる通信・第63号掲載の、地域ケアセンター八巻利子元センター長によるサポートウィズ「在宅を支える支援」の原稿に、読者およびご利用者様、保護者の方々に誤解を与えかねない表現がございました。この問題に対しましては、いたる通信の原稿執筆者および編集者に適正な表現の徹底に努めることを周知し、さらに、社会福祉法人いたるセンター・広報委員会で議論を行い、「いたる通信のみならず、表現に対する校正を厳しく行うこと」を周知いたしました。ここに深くお詫び申し上げます。

いたる広報委員

発行責任者＝谷山 哲浩

社会福祉法人いたるセンター  
〒167-0032  
東京都杉並区天沼1-15-18  
TEL: 03-3392-7346  
FAX: 03-3391-8039  
Eメール: info@itarucenter.com  
HP: http://www.itarucenter.com/  
発行日/平成29年7月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。

いたる ITARU CENTER

# ISO6001:2015年版の活用

阿佐谷福祉工房 施設長

佐藤 章

今年の5月にISO9000 1:2015版への移行審査をしていただきました。ISOの活用は、ご利用者様の満足度を安全、安心にシステマチックに行いながら上げていくことだと思っております。

今回の審査で審査員より好評をいただいたのは、「食事の提供」についてでした。60名のご利用者様の嗜好をしっかりと調査して、日々のメニューに取り入れている。スタッフも検食をしつかり行い、ご利用者向けの味になっていくかどうかをしっかりと確認して提供していることが高い評価となったようです。

日々、ご利用者様のことを考えて行っている取組みが、「業務標準マニュアル」に落とし込まれることにより、スタッフが変わっても、同程度のサービスやさらにより良いサービスとなることに、審査を通して気づかされました。

また、ひやりはつと・事故報告については、すぐに対策について検討し実践しています。が、「再発防止のための対策」についての有効性などの検証を記録に残すよう指摘がありました。これを改善・徹底することで、安全・安心な施設運営に注力し、ご利用者様の満足度の向上へとつなげていきます。

ISOは、日々進歩をしていくための道標として、大いに活用しています。



ISO 審査員に好評だった阿佐谷福祉工房の昼食提供。

# アート活動について

イタル成城 統括リーダー

井桁 次郎

イタル成城の中核的な活動としてアート制作を行なっています。



個性あふれる作品が生まれています。

29年2月には世田谷美術館で集大成としての展示会を開催し、その他にもNHK技研

がふれる活動になりました。今後、アート活動によってどのような効果が生まれるのか未知数なところもあり、大きな可能性を感じるところも

あります。一人ひとりが自由に関わり、笑顔を楽しみ、笑顔

# 29年度・虐待防止委員会の取り組み

杉並区障害者地域相談支援センター(すまいる高井戸) センター長

春山 陽子

法人内虐待防止委員会(阿久津庄司委員長)では、昨年度マネージャー会議に相談し、すべての職員・パートナーの方を対象に、障害者の方への支援に必要な基礎研修を実施し、リーダーには、ケース会議のロールプレイとスピー

ジョン研修を行いました。今後、リーダーたちがスピー

ションを展開してくれ

るのを期待しています。また、課題や要望に応じて施設単位の研修の開催やグループホームとの共催での寺子屋(少人数の学習会・月1回)をスタートしました。今年度は、阿佐谷福祉工房でも開催する予定です。

虐待防止委員会では、職員・パートナーを対象に、支援に迷ったり悩んだりした際

の相談窓口として、職場への相談のほか、委員が窓口として応じています。少しずつ利用者も増えていきます。

適切な支援が、支援時の事故や虐待を防ぐことにつながると考え、今年度も取り組んでいきたいと思っております。今年度もよろしくお願ひします。(虐待防止委員会研修担当)

# 三井ソーシャルオフィスの現場から

三井SO 統括リーダー

渡邊 菜都

今年の四月より、三井不動産リアルティ株式会社様の荻窪事務所でジョブコーチ支援を担当しております。ジョブコーチとは、一般企業で働いている障害のある方に対して、仕事の指導、環境整備、メンタル的なサポートなどの役割を担う者です。

で、その方の持つ力が10としたら、10の力、11、12の力を引き出して行くのが私の役割です。私のこれまでの経験では、10と見立てた力が、予想を大幅に上回る百の力、千の力、それ以上の力を発揮されることのほうが多いです。人の持つ可能性は無限大で、予想を大きく上回る瞬間が見られることは、何にも変えがたい喜びです。

荻窪事務所でも、その奇跡のような瞬間が見られることに楽しみに、日々のサポートに邁進してまいります。

荻窪事務所では、チャリパ(時間貸し自転車駐輪場)という自転車置き場の巡回業務と事務所内での内勤業務があります。巡回業務は、チャリパ(時間貸し自転車駐輪場)の整備、清掃業務を行っております。内勤業務は、書類のスクリーン業務、封筒ハンコ押し、ラベル貼りなどの軽作業業務を行っております。



ジョブコーチ支援にあたる渡邊菜都さんです。

え気に働く職員たちをピックアップ  
いたるセンター  
支援の現場から

# 保育事業の現場から

JTELLIEおごちえん グループリーダー

林 久美

保育園の一日についてお伝えしていきたいと思っております。まずは朝。四月には泣いていた園児もすっかり慣れて、保護者に手を振ってくれるようになりました。園児はもちろん、保護者との関係づくりも大切です。

日頃の信頼関係があつてこそ安心できる環境を整えるのが一番大切なポイントです。起きてからは、おやつを食べ、午後の活動を開始。ここでも園外に出たり、じっくりと遊んだり。関わりを深めていく時間です。

九時半におやつを食べると公園や児童館に行ったり、夏場はプールをしたり園外活動が始まります。計画性ももち、園から一・五キロの範囲内を目安に様々な場所へ行き、沢山の経験を積めるように配慮しています。

こうしてお迎えを待つのですが、保護者が見えたら情報交換の時間でもあります。園での様子をお伝えし、親子共に、明日も楽しみと思ってもらえるよう気を付けています。人と人のつながりを、信頼で深めることが、保育の楽しさの一つだと感じています。

外から帰ると、栄養士が作った給食の時間。大人が食べても、素材の味を生かした調理で、とてもおいしくいただけます。



みんな大好き、なかよくお昼の時間。

# ワルツに防災倉庫を新設

地域ケアセンター・グループホーム マネジャー

白瀧 則男 (しらたき のりお)

6月5日にグループホームワルツの3階ベランダに防災倉庫が設置されました。倉庫の中には、ヘルメット・寝具・水・食糧・非常用備品などを備蓄します。ワルツは、各グループホームが震災・火災などで使用できなくなった場合の防災の拠点となっています。2、3階のリビングは広く取っており、



グループホームの防災拠点、ワルツの屋上に新設した防災倉庫。

# 居宅介護支援について

地域ケアセンター・サポートウイズ

ケアマネジャー

中兼 道朗 (なかかね みちろう)

昨年4月から「高齢者部門」を本格的に始動し初めました。初めは知名度が皆無だった当支援事業所も不断の「営業」活動で徐々に新規顧客の集客ができるようになりました。「いたるの中兼は何をしてくれるの?」と尋ねられることがよくあります。既にある多くの大小ある競合他社の岩盤を打ち破って風穴を開けるのは容易なことではありませんが、今後はサポートウイズの障がい者支援という持ち味を磨くことで、その特徴(強み)を構築し、地域の皆様から「安心と信頼のいたる」を根付かせるよう、町内会である「荻窪白山親和会」様とも交流を深め、年中行事等にも参加することで地域密着型の「いたる地域ケアセンター・サポートウイズ」を目指して日々、業務に精励して参りたいと思います。

# 開店6周年を迎えて

さんまるしえ マネジャー

鈴木 健 (すずき たけし)

さんまるしえは6月25日で開店6周年を迎えます。この間、地域の皆様に愛される店舗創りをめざして参りましたが、昨年に引き続き本年も期間中のイベントとして、目黒区のボランティア団体の「目黒区民交響楽団の「ミニ演奏会」や下目黒図書館の会の皆様による「読み聞かせの会」を店舗内で開催致します。更に目黒本町福祉工房で栽培された多肉植物の販売会や、ワークイン翔のパウンドケーキなどの販売会等、盛り沢山でお客様をお迎えし、地元密着の店舗運営を図ります。

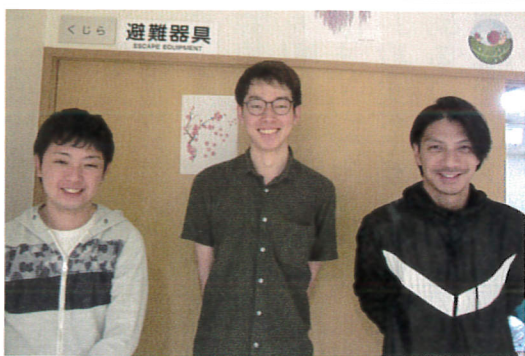


地域の皆様に好評の、絵本の読み聞かせ。

# 男性職員の入職で、より利用しやすく

クロバー・マルコ 所長代理

仙石 宏樹 (せんごく ひろき)



男性職員の増員で、職員数も同性介助も充実しました。

地域で暮らす障害者、そのご家族の暮らしを支える事業所として、セーフティネットの役割を果たすとともに、ご利用者様が笑顔で過ごせる時間を提供することが、クロバーの使命です。平成29年度は、男性の新卒職員を新たに私たちの仲間に加えることができましたので、昨年度に比べ、職員数、同性

# 活動の奥行きと拡がりに期待して

目黒本町福祉工房 施設長

阿久津 庄司 (あくつ しょうじ)

目黒本町福祉工房は、生活介護・就労継続支援B型ともに年間を通して様々な活動を行っています。現場の支援員は、それぞれの活動がご利用者様にとって有意義であり、且つ個々の力を存分に発揮できるよう、工夫を施して活動を提供しています。しかし、活動そのものにスポットを当ててみると、支援員のみで創意工夫するだけでは限界を感じてきます。特に専門性を問われる活動においては、その担当職員にかかる負荷は計り知れません。そこで、今年度からいくつかの活動で専門家のお力を借りることにいたしました。具体的には、生活介護では、毎週水曜日実施のクラブ活動(音楽、アート、創作等)の

中で音楽とアートの両クラブに講師を、就労継続支援B型では陶芸とシルク印刷を含めたデザイン部門で講師をお招きしました。ご利用者様の潜在的な能力をいかに引き出せるか。先生方のお力をお借りし、支援員とタッグを組んで「活動に奥行きと拡がり」が出ることを大いに期待したいと思います。

# 利用者アンケートから見えてきたこと

あけぼの作業所 所長

荒川 義夫 (あらかわ よしお)

昨年度、初めて実施した利用者アンケートを再度分析してみたところ、いくつかの新しい発見がありました。あけぼの作業所は生活介護と就労系(B型、移行)に分類される関係で、別々の設問を行いました。その結果、自由記述において顕著な結果が出ています。生活介護では賛辞する記述は3件で、他の全ての記述は(8件)「○○○してほしい」などの要望を含めた建設的な意見で、批判的な記述は1件もありませんでした。次に就労系ですが、こちらは賛辞の記述が7件と多かったです。他の意見は生活介護同様に「○○○してほしい」といった要望を含めた建設的な意見が10件で、批判的な記述は生活介護同様に0件でした。以上から、大半の利用者及びご家族の方が大方満足して

# 保育園関係の新規取引先が増えました

パン工房 Pukapuku 統括リーダー

池田 史暢 (いけだ あやのぶ)

2017年6月現在、杉並区内の保育園関連との給食の取引は、この4月より新たに3件増えて25件となり、生産個数ならびに売り上げも前年に比べて二ケタの伸び率で推移しております。新しく取引していただいた各保育施設では、「園児たちの残食がなくまりました!!」「パン給食の時は園児たちがすごく喜んで



ふわふわのソフトな食感、原材料も厳選しています。



ご利用者様が楽しみにしている宿泊行事も、定期的に行っています。